

1 日時 令和6年3月7日(木) 16:30~18:30

2 場所 守谷市立中央図書館 視聴覚室

### 3 出席者

- 委員 (15名中15名出席) 以下、敬称略
- ・越智壽雄(守谷市校長会会長) ※副会長
  - ・中野比呂志(守谷市校長会副会長)
  - ・荒井弘勝(守谷小学校校長)
  - ・奈幡 正(黒内小学校校長)
  - ・中原卓治(郷州小学校校長)
  - ・木下悦郎(松ヶ丘小学校校長)
  - ・片岡正美(愛宕中学校校長)
  - ・吉田あゆみ(守谷市 PTA 連絡協議会会長)
  - ・佐藤若菜(守谷市 PTA 連絡協議会副会長)
  - ・永井祐介(守谷小学校 PTA 会長)
  - ・山本広行(松ヶ丘小学校 PTA 会長)
  - ・藤井穂高(国立大学法人筑波大学人間学群教授) ※会長
  - ・村山 守(守谷 C 地区まちづくり協議会会長)
  - ・古屋正博(守谷 B 地区まちづくりふれあい会)
  - ・星野陽子(ひがし野まちづくりの会)

#### ○事務局

- ・小林教育部長、古橋参事
- ・学校教育課 前川課長、坂本課長補佐、菊地係長、中北主任、岡野主任
- ・㈱ちばぎん総合研究所 調査部 福田

#### ○傍聴人4名

### 4 会議内容(発言の主要部分を掲載)

#### (1)会長あいさつ

- ・今年度最後の第6回となります。今回は、2回目の答申をまとめるデッドラインとなっていますので、活発にご議論いただきつつ、ご協力をお願いします。

#### (2)部長あいさつ

- ・前回の審議会で議論いただいたスクールバス導入による学校選択制度(案)について、2月中旬に3日間、松並青葉地区で説明会を開催し、受入校の抽選やバスの安全対策、便数、停留所、新設校の建設を求めるとご意見など様々なご指摘をいただいた。市民の皆様

からのご意見を報告するとともに2回目の答申案を審議いただきたいと存じます。宜しくお願ひします。

### (3)議題

#### ①松並青葉地区事前説明会について(報告)

##### 【事務局】

・資料 No.2「令和7年度黒内小学校過大規模校対策について」、資料 No.4「就学校変更基準」を説明。

##### 【会長】

・資料2、資料4についてご意見をいただいた上で、答申案について検討させていただきたい。

##### 【委員】

・ここ2か月の教育委員会の説明等の努力に対し感謝申し上げます。

・資料2の意向調査結果②-1「現時点で考える就学先(複数選択可)」は、分母が回答者数 112 人で黒内小70%としているが、分母を回答数194とすると41%になる。複数回答しているが、実際には通えないため、41%の方が実態を示す数値であり、差分の約30%は重複分だと思われる。今後、地元の方に説明する際には、41%の方で説明した方が分かりやすいと思うので、ご検討いただきたい。

・私も説明会に参加しているが、学校の新設について非常に多くの意見が出ている。これは、説明不足のため、地域の方に状況を十分ご理解いただけていないことが原因ではないか。今後の説明会でも意見が出ると思うので、推計値がなぜ違ったのか、過去のみずき野の例も出すなどして分かりやすく説明いただきたい。また、学校を選択する側として多くの判断材料を求めるのは当然である。参考資料 2「5. 学校を選択するために、どのような学校情報がほしいですか」では、多くの意見が寄せられている。黒内・御所ヶ丘・郷州小学校の3校については一覧表で整理するなど、情報をなるべく分かりやすくまとめ、住民の方に説明いただきたくご検討をお願いしたい。

##### ⇒【事務局】

・委員以外からも、学校情報を分かりやすい形で提供してほしいとの意見をいただいている。ご指摘事項も踏まえ、4月13~14日に予定している説明会では、ご要望に沿った資料提供の準備を進めている。

##### 【委員】

・学校選択制度の終了時期は、黒内小学校の児童数が 800~900 人台ではなく、800 人台ではないか。

##### ⇒【事務局】

・900 人から800人台になる見込みが見えてきた時点で協議したいと考えている。

### 【委員】

- ・800～900人台では、1000人までと読み取りかねない。
- ・アンケートの就学先を複数選択可としたのはなぜか。変更者が多くなければ希望する小学校に通学できるが、この30～70%というデータでは見通しが立たず不安になるのではないか。今後改めてアンケートを取る予定はあるか。

### ⇒【事務局】

- ・今回、初めての説明会だったので、今回の説明を聞いただけでは迷われる方が多いのではないかとということで複数回答にした。直接的なデータになるとは我々も考えていない。4月の説明会実施後に改めて、令和7年度の黒内小学校新入生全員に対し、選択希望、スクールバス利用希望を調査し、実数を把握する予定である。また、その際には地域の意向を知りたいという意見が多く寄せられているため、地域ごとの傾向や結果について、随時HPで公開していきたいと考えている。

### 【会長】

- ・丁寧に説明した方が良いと思うが、周囲の意見に流されてしまう可能性もある。1回目の報告、2回目の報告、などとスケジュールを決めて提示し、その範囲で選択していただくしかないと思う。

### 【委員】

- ・徒歩圏通学区域の変更についてだが、レクセルプラザ守谷は変更区域にはなっていないと記憶している。
- ・(4)今後の検討事項で、北園交差点の混雑緩和のための回避ルートはこれから検討するものと認識しているが、説明会出席者には、北園交差点を迂回するために松並青葉地区の子どもは守谷駅まで遠回りして通学することになる、遠回りするのであればスクールバスにしたいと、ミスリードされている方がかなりいらっしゃるようだ。それを受けて、ひがし野も遠回りさせられると思われる方もいるので、正しい情報提供をお願いしたい。

### ⇒【事務局】

- ・レクセルプラザ守谷は、前回資料で通学区域変更を継続協議する区域に含まれている。
- ・地域の意見収集について、レクセルプラザ守谷の代表者に照会したところ、役員会や総会がないため、対象者に直接あたってほしいとのことであった。このため、3月23日に区域変更にかかる意見交換会の実施を予定している。前回の審議会においては、通学区域変更なしとした区域以外は、地域の意向を確認した上で今後も実施可否について検討するという結論になっている。
- ・北園交差点の通過児童数は、過大規模校対策を講じなかったり、対策の効果が出ない場合は900人以上に増加する推計がでていいる。このため、安全対策として回避ルートが設定できるかも含めて、今後、黒内小学校や保護者等と検討していく。守谷駅を回るルートは、可能性としてゼロではないが決定ではない。複数ルートを提示して、今後どのルートが一番子どもにとって相応しいか協議していくことになる。

### 【会長】

・間違いではないが可能性はあるということで、重要な判断基準となりそうだ。

### 【委員】

・現在、登校班の管理について、学校から PTA 本部への移行に取り組んでいる。通学路の見直しは必須だと思っているが、ただルートを変えるだけでなく、通学補助員の方の増員を検討いただく必要がある。大人の目を増やしていかないと安全を確保できないところまできている。黒内小学校 PTA には、地区委員が存在しないため、ルート検討や集合場所の設定にあたっては、エリアの方の意見が参考になる。通学路は学校がメインで設定していくと思うが、エリアの保護者の意見も聞きながら、合わせて検討いただきたい。PTA でも見守り活動として監視の方も増やしていきたいとは思いますが、現実的には難しいので、行政や学校と連携して取り組まなければならないと考えている。

### ⇒【事務局】

・教育委員会としても会議に参加させていただき、ルートや人員配置についてぜひ一緒になって考えさせていただきたい。場合によっては、警察や道路管理者など、関係機関も含めてそのような場を設けていきたい。

### 【委員】

・説明会では、子どもの安全を考えて、回避ルートとなる可能性を説明したのだと思うが、受け取り側のインパクトは大きいので、次回説明会では丁寧に説明していただきたい。

### 【委員】

・この2か月間の、教育委員会の住民への周知の取組に敬意を表したい。また、住民の皆さんについても、説明会や調査へ参加いただいたことに感謝している。「新設校」というキーワードは、多くの意見に出ており、否定だけでなく建設的な意見もある。新設校建設も視野に入れて検討した結果、物理的に厳しい点は、丁寧に説明いただきたい。

・北園交差点の回避ルートの検討と聞くと、私も守谷駅の迂回をイメージすると思う。黒内小から他校へ変更した方も残った方も、win-win となるように、住民の期待や不安が色々な部分に結び付くので、近隣公園の一時使用やプレハブ校舎設置などの情報も説明に加えていただきたい。

### 【委員】

・3 年間、黒内小で毎朝登校状況を見ていた中で感じるのですが、迂回ルートで駅をまわすというのは現実的に難しい。迂回ルートで可能性があるとするれば、「かつや」と「サイクルベースあさひ」の間を通すルートであろうが、以前も話があったが、子どもの足では迂回としては結構な距離となってしまう。そのような中で現実味のある解決策として、現在の時差登校となっている。

・今はかなり円滑に流れており、時差登校がないところは労働金庫の駐車場に 100 人くらい溜まり、何回にも分けて渡っていたという状態が回避されている。現在の児童数は 750 人から 800 人程度であるが、今のところはまだ円滑に流れている。

- ・県道野田牛久線の常総橋から市役所にかけての縦の道路の歩道は自転車が通れない。レーベンマンションの前の道路は、道路交通法上は自転車が通ってはいけないが、守谷中学校がルートを変更するまでは、子ども達が自転車で通っていた。このため、せめて道路を拡張していくのが建設的ではないかとの結論となった経緯がある。このほかにも、例えば、踏切の広さは鉄道法で出口の道幅にそろえなければならないと決まっており、レーベンマンションの前がいくら広くても、土地があるようにみえても広げられない。そういった点を考えていく必要がある。
- ・歩道橋を建てればという話もあるが、現在は歩道橋を建てるだけの道幅がない。また、北園交差点の北側に人口が集中しているため、歩道橋で北園の問題を解消するためには「口」の字にしなければならない。横にかけられなければ歩道橋の意味がないが、「口」の字にするために道路を拡張するという事になれば用地買収も必要となり、いつ完成するか分からない。また、「口」の字の形の歩道橋を架けたとして、そのころには松並青葉の人数が減るが(歩道橋を架けるとその下の横断歩道はなくなる可能性が大きい)、高齢者が横断するためにいちいち歩道橋を乗降することになり、小学生もやがて中学生になり、自転車を押して歩道橋を乗降する必要がある。これはかなり厳しく、そのため、歩道橋というアイデアはあまり現実的ではないと考える。
- ・スクランブル交差点化は、国道 294 号が大渋滞となるだろう。時差登校を提案した際に警察と相談して、車側の信号が 2 数秒短くなったが、それだけでも大渋滞となった。
- ・回避ルートを検討するには、例えば 3 丁目と 4 丁目の子どもたちを、「かつや」と「あさひ」にまわすために「ヨークベニマル」の信号機や「ウェルシア」近くの押しボタンを押し続けてしまうと、常総橋までの道路が大渋滞となってしまうだろう。交差点の下をトンネルにして通過できれば一番良いだろうが、それを行うには何年もかかってしまう。そのため、今のところ現実的な案は道幅を拡張して、児童が安全安心に通行できるルートを確認するという事になるのではないかと考える。
- ・現在は、(市で配置している)通学補助員の技術で、十字路の角に子どもたちをためて、秒単位で誘導している。補助員の皆さんは、信号が何秒で変わるかも全部分かっており、子どもたちの人数を把握し、縦や横に誘導して何とか円滑に行ってくれている。先程も意見があったが、通学補助員増員の方がルートの遠回りよりも現実的ではないかと思う。そのような対応をしていけば、地域の方も突然ルートが変わるという心配は回避されるのではないかと考える。
- ・ただし、通過する児童が 1,000 人や 1,200 人となったら想像がつかない。私のイメージでは 800 人や 900 人でも限界かなというところである。現在の時差登校は 2 班であるが、3 班に分けると登校時間が変わってしまい、その調整が困難であるため不可能と考える。
- ・登校班をなくすという方向性もあるが、流山市では登校班をなくした途端、週に 1~2 回、(子どもたちが別の所へ歩いて行ってしまい)探すことになったと聞いている。自由登校では、子どもたちの登校状況が把握できない。子どもたちの安全安心を担保するためには登校班が必要。そのような点まで理解いただいたうえでルートを変えるのであれば「かつや」のところが限界であるが、黒内小の入口が 1 つしかないことも問題であるため、3 方向、4 方向から入れるようにしていただきたい。用地の問題などで難しい点はあるが、学校の入口を考えるだけでも変わってくる。通学路のルートを変えるという

話は知らなかったが、建設的に、今後も議論を継続しつつで、できる対応を行う必要がある。

**【会長】**

- ・変更基準の方はお認めいただくということで良いか。  
→ 反対意見なし
- ・それでは、資料3の答申について協議させていただきたい。

**②答申**

**【事務局】**

- ・資料 No.3「守谷市立小学校及び中学校の通学区域について(答申)」を説明。

**【会長】**

- ・今回、合意ができたところで答申としてまとめる。お気づきの点があれば積極的に意見をいただきたい。

**【委員】**

- ・児童推計値に応じた対応策ということで細かく書かれている点は評価したい。
- ・適用期間について、黒内小学校児童数900から800人台としているが、900と記載する必要はないのではないか。誤解を与えかねないので900を削除し、800人台としてはどうか。

**【会長】**

- ・私も 900 は不要で、800人台で良いと思う。
- ・ご指摘いただいた「適切な対策を庁内全体で検討する」ということは教育委員会だけでなく、庁内全体の大きな単位で検討するという点で、そこが重要だと思う。新設校の設置については、今回の対策としては課題解決に間に合わないことと、将来推計を考慮すると難しいと思うが、施設自体を複合化、多様化、別の施設に転用することも考えられる。そうすると、松並青葉地区で1つ学校を作り、高齢化に伴い別の施設に転用することも考えられる。ただし、それは教育委員会だけで決められることではないので、松並青葉全体、市全体の将来像を踏まえて、市長部局として連携してできることがあればという対策になる。「庁内全体で」という点は、ご指摘のとおり重要なポイントだと感じた。
- ・心のケア対策として、スクールソーシャルワーカーとあるが、スクールカウンセラーでなくて良いか。

**【事務局】**

- ・両方の場合もあるため、「など」としてある。カウンセラーは相談対応が主で、スクールソーシャルワーカーの方がより踏み込んだ対応ができる。

## 【委員】

- ・意向調査の自由意見を拝見して、学校の教育活動について心配がある点は、心苦しく感じている。1月の審議会で申し上げた心のケアサポートにかかる対応を記載いただいたが、多くの子どもや保護者が、学校が変わるかもしれないということの心配・不安を抱えている。付帯意見(1)で就学校変更や学校選択を行ったかに関わらずスクールソーシャルワーカーによる支援体制を整備すると明記いただいているが、自分や友達の転校に対する支援は大切だと感じている。選択希望とはいえ、在校生の移動については専門家をはじめ教員の連携・引継ぎなど丁寧なサポートが必要であり、明記いただいたことは有難い。
- ・付帯意見(3)児童推計値に応じた対応策について、今回の対応策を実施しても黒内小の過大規模校化は急激に鈍化しない。令和6年度の児童数は、現時点で100名増の1,270名弱で、相談学級を含めて今年度より4学級増える見込みとなった。新1年生は7学級となる。理科室、図工室、体育館、校庭など、他校に比べ余裕がないことは何度も申し上げてきた。児童の適切な教育環境確保のため、推計や学級数に応じた対応策は、継続的に検討いただきたい。
- ・付帯意見(1)で、過大規模校の現状についての周知、情報提供は学校選択のために必要だが、事務局には、数字の一人歩き、教育活動に対する誤認識がないような情報発信、説明責任を、学校と一緒に果たしていただきたい。
- ・北園交差点の通学路見直しについては、学校として別ルートを積極的に提案しているわけではないが、事務局では北園交差点を1,000人以上が通過することを想定して話題にいただいたと認識している。通学班については様々な要望があり、通学班の選択制や廃止も検討していたが、通学区域を変更するか否かの最中であり、大きな舵取りの変更は負担が大きいと判断し、現状維持で、管理をPTAに支援していただいている状況である。

## 【会長】

- ・当該校として文言の修正はあるか。

## 【委員】

- ・意向調査の自由意見をみると、黒内小学校のことをもっと知りたいとのご意見を多数いただいている。本校では、1,172名の子どもが昼休みをスタディタイム、昼休み、掃除に3分割し、ノーチャイムの時間差で動いている。また、グラウンドを3つのエリアに分けて15分間比較的余裕をもって遊んでいる。本校の教職員、保護者がつくりあげてきた黒内小のシステムであり、一斉に外に出ることができないことが本当にデメリットなのか、5月の学校説明会で聞いてもらって、公正公平に選んでいただきたい。昼休みが15分しかない、一斉に外に出られないことが大きなデメリットのように、一面的な見方で評価されることのないよう、その情報発信だけは事務局にお願いしたい。

## 【委員】

- ・付帯意見とは、今後行う実施項目という理解で良いか。

**【事務局】**

・実施する上で配慮する事項である。

**【委員】**

・(4)全体を通じての意見は、「地域意向を聴取する方法を検討していくこと」を「地域移行を聴取していくこと」としてはどうか。検討ではなく、各日に聴取した方が良い。

⇒**【事務局】**

・修正対応します。

**【委員】**

・松並青葉の方から、この時期に言われても困る、それだったら私立を受けたのという意見もあったことから、就学先を決める時期に、保護者が十分な情報を持って選択できるよう周知を行うという表現があると良いと感じた。

・付帯意見の(1)に「丁寧な説明」「積極的に情報提供」の文言に加えて「早期に」など適当な文言があると良い。

**【委員】**

・進路を変えても間に合うタイミングとすると、思いつきだが、「該当地域関係者に対して、様々な進学の可能性を可能とする」のような表現としてはどうか。

**【会長】**

・個別案件であり、特出してしまうとかえって分かりにくくなってしまうので、「積極的に情報提供を行い」に含めた方が良いのではないか。ご意向や具体的な事例は理解した。

**【委員】**

・学校別の児童数や教室数が示されているが、黒内小学校は他校に比べて1クラスあたりの児童数が多い。学習支援ティーチャー配置基準は1学級当たりと聞いているが、一人当たりの児童数によって支援の手厚さが異なるので、児童数で配置いただきたい。文言として盛り込むべきなのかわからないが、支援学級が増える中で、その辺りの配慮も視野に入れていただきたい。

**【会長】**

・黒内小学校の1学級あたりの児童数が多いことは事実であり、黒内小学校への支援は具体的に盛り込んだ方が良い印象を受けた。教員は定数が決まっているが、サポート人員は市の判断で配置可能ではないか。

⇒**【事務局】**

・文科省の規定を県が運用し、1クラス 35 人以下で学級編制しており、教員の増員は県の方では難しい。学習支援ティーチャーは守谷市独自の取組であり、周辺自治体より充実している。手厚いに越したことはないが、教員免許を持ち、突発的な子どもの対応が

できる方を相当数採用することは、予算を確保しても簡単にできることではない。この場で前向きに検討するとも言いづらい部分があるが、長期的には考えていきたい。

⇒【事務局】

・文言としてどのように反映するか。付帯意見の(3)児童推計値に応じた対応策のなか  
に、「適切な対策を講じるとともに庁内全体で検討する機会を設定する」という表現が  
ある。

【会長】

・黒内小学校について全庁的に検討することになってしまうので、「児童生徒の適切な教  
育環境確保」あたりで文章化できないか。ここに、人的な部分も含まれる説明とできな  
いか。  
・審議会の答申と教育委員会の方針を分けて考える自治体もあるが、守谷市では、これ  
をできるだけ一体化している。そのため、記載した事項は実際に取り組むことになるた  
め、具体的な項目を答申に全部盛り込むことは難しいがどうするか。

【委員】

・「適切な対策」に包含される。「適切な教育環境確保」の部分に皆さんの思いがあるので、  
「教育環境確保に努める」で一回文章を区切り、「中長期的な小中学校の適正配置の観  
点から推計を行う」としたほうがスリムになる。具体的な内容を入れ込むことは難しい  
かもしれない。

【会長】

・黒内小学校の対策をしっかり行うことを打ち出した方がわかりやすいかもしれない。

【委員】

・随時とかその都度とか、短いスパンで対策を取ることを、「検討する機会を設定する」で  
はなく、「検討していく」と強めにした方が良い。

【会長】

・「適切な対策を庁内全体で検討すること」と修正する。

【委員】

・新設校について多くの意見が出ていたが、答申に記載されていないため検討しないと  
いうことにならないか。市民は気になるのではないか。

⇒【会長】

・新設校はどうか、といった意見はたびたび出てくるが、記載はどうか。

⇒【事務局】

・内容としては、後半の文言に含ませている。

### 【委員】

- ・市民が新設校を期待しているのもわかるが、市全体のバランスで考えると、廃校となる学校も一部あるかもしれない。そういった、全体のこともきちんと説明する必要があると思う。黒内小学校のみではなく、全校を包括して協議する、そういった理解が深まらないと、いつまでたっても新設校の議論はいつまでたっても続くと思う。できる、できないも検討が必要だし、一方で廃校となる学校もあるということ、答申とは離れるが、市全体で考えないといけないと思う。

### 【会長】

- ・新設校を検討しない方針ではないことは議事録に残る。
- ・文章には入らないが、「庁内全体で検討する」に含まれている理解になるのではないか。
- ・答申としてはこのような形でよろしいか。
- ・黒内小学校の教育活動の支援策で、近隣公園の一時使用やプレハブ校舎設置は既に進めているのか。

### ⇒【事務局】

- ・近隣公園の一時使用は、どのくらいの利用となるか学校の方で検討している。プレハブ校舎については予算が関わるが、実施ベースで検討している。

### 【会長】

- ・基本的にはプレハブ校舎を設置して、移動希望がない場合にも対応していくことになる。

### 【委員】

- ・次年度は別の審議テーマがあるということによろしいか。

### ⇒【事務局】

- ・そのとおりです。

### 【委員】

- ・受入れ校の抽選とはどういうことか。

### ⇒【事務局】

- ・当初案では丁目ごとに学校を指定していたが、地域ごとに就学先を強制されるのは不公平だという意見や、全地区としてほしいといった御意見をいただいた。全地区対象とすると、松並青葉の児童数が多いため、受け入れ先が適正規模を上回ってしまう。また、第1学年だけ学級数が多い(学級数に偏りが出る)といったことになり、学校運営に支障が出てしまうことから、各学年の定数を設定した。そうした結果、仮に多くの方が選択を希望された場合、すべての希望を叶えられない可能性があるとの結論になった。
- ・移動希望者がどの程度になるかは分からないが、受け入れ枠を超過した場合は抽選とせざるを得ない。熟慮して選択したのに抽選の結果で通えないことは心苦しいが、現時点では、出来る限り希望に沿えるよう柔軟に対応したいと考えている。

**【委員】**

- ・基本的には抽選は行わず、移動希望者が多い場合のみ行うということで良いか。
- ・場合により、移動しない選択もあるということで承知した。

**【会長】**

- ・移動希望者がどの程度となるか見通しが不明な中で、可能性は低いかもしれないが教育委員会としては物理的な面で抽選制とせざるを得ない。選択する側からすると不本意かもしれないが、最初から申し上げておくしかない。

**【委員】**

- ・5月18日の学校説明会の詳細を伺いたい。

**【事務局】**

- ・黒内小学校の全学年で就学校変更の申立が可能となったため、令和7年度新入生保護者全員に加え、在校生保護者も参加可能とする。場所は中央公民館ホールを予定。

**【委員】**

- ・過大規模校対策は、市内の大きな問題の1つになっており、学校説明会では市長がメッセージを発信するべき段階まできているのではないかと個人的には考えている。ご検討いただきたい。

⇒**【事務局】**

- ・市長には審議内容等逐次伝えており、出席について検討する。

**【委員】**

- ・通学路の見直しについては、先程、話があったが、学校のA棟裏に出入口を増やすことで、百合ヶ丘2丁目の26班の児童が分散されるのではないかと。

**【委員】**

- ・委員がおっしゃる通り、入口を変えるだけで通学時間は5分変わってくる。A棟裏には、以前使っていた道がある。土塔方面の道や、はるかぜ駐車場に斜めに道をつくるなど、小さなことで混雑の解消が見込めると思う。

**【藤井会長】**

- ・そのあたりは、来年度の検討課題とさせていただく。

**(4) 答申**

藤井会長より教育長に答申

**5 閉会**

以 上

議事録署名人

村山 宗

古屋 正博